

第60回企画展

自給織物と道具



平成26年4月5日(土)～6月27日(金)

岩手県立農業ふれあい公園 農業科学博物館

昭和中期頃まで、生活や生業で使われる布類は、草木類や蚕の繊維を取り出し、それを織って植物染料で染色し、自給していました。

衣服の素材として使われている着心地よい木綿は、8世紀末にインドシナ半島の青年が愛知県に流れ着き、種を伝えたのが始まりですが定着せず、15～16世紀に、唐木綿からもめんの輸入と共に再来して、綿作りわたも行われるようになり普及しました。

寒い岩手では綿わたが栽培できず、市日などで古木綿ふるもめんを手に入れ、自給の衣料に混ぜて作業衣としました。

雫石町の「こしぴり（みじか）」や盛岡市玉山地域の「すっぱ」などには、模様や仕立て方に加工や工夫がされて定着している独自の特徴ある農作業衣が見られます。

現在は、飽衣の時代とさえ言われ、衣服や生活用具は豊富な物の中から選び、購入できる時代となっています。

企画展では、自給の時代に使われた、衣料、繊維を作り出す道具や織物の染色に用いられる植物染料などを紹介します。



麻織物（農作業衣）



糸車



糸繰りかご



裂き織り用の木綿

岩手県立農業ふれあい公園

農業科学博物館

北上市飯豊 3-110 TEL:0197-68-3975

開館時間／9:00～16:30(入館は16:00まで)

休館日／月曜日(月曜日が祝日の場合は火曜日)

入館料／一般300円 学生140円 高校生以下は無料

団体割引等(20名以上)あります。

駐車場／大型バス12台 普通車240台 身障者専用5台

※ 4月1日から一般の入館料は10円値上げし300円となります。